

# 平成27年度北信越ブロック A級審判講習会

平成27年8月22日(土), 23日(日)

第36回北信越国体体育大会バスケットボール競技  
富山県西部体育センター

# 【開講式】

(公財)日本バスケットボール協会

橋本 信雄 氏

- 人それぞれの「こうなりたい」という希望を持ちながら、引退するまでステップアップを目指して活動してほしいと思います。
- 資格を活用し、自身のレフェリングを高めていってほしいと思います。

(公財)日本バスケットボール協会

湯浅 暢宏 氏

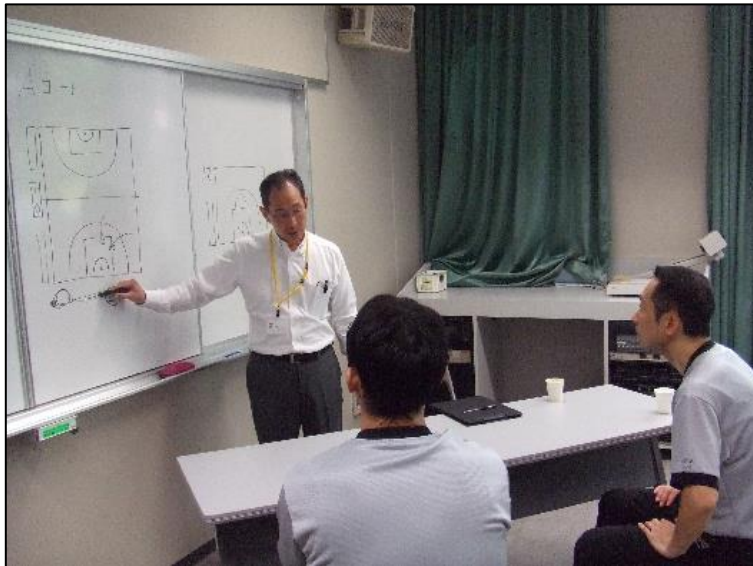
- 上級審判員として、ライセンスがより輝くような中身の講習会にしてほしいと思います。



# 【実技講習の様子】



# 【実技講習の様子】



# 【講義】湯浅 氏

- どのゲームであろうと、何時如何なる時も責任を強くもってほしい
- A級審判員が公認審判員をリードしていかなくてはならない。
- 審判員とは、チームのため、プレイヤーのために公共の精神を忘れずに。チームに不正不満を抱かせてはいけない
- 四原則を理解し、実践していかなくてはならない
- “I think, I call”ではなく、“I see, I call”。事実の確認をしっかりとすること
- プレイをコマとしてではなく、帯として捉える
- On ball とOff ballをしっかりと役割分担する
- イリーガル・ユース・オブ・ハンズの判定をしっかりとすることで、ゲームがクリーンになる
- エリア5はプレイヤーが密集するエリアであり、リードだけでは判定することが難しい。トレイルの協力が不必要不可欠である
- 新ルールの対応をしっかりとする
- ショット・クロック、ゲームの終わりなどの時間の管理をしっかりとする。最後は絶対にミスをしてはいけないこと



# 【講義】橋本 氏

## リード・オフィシャル

- リードの体の向きは45度 (angle)
- バックボードの裏は立ち止まったり、この場所から判定をすることを避ける
- 原則として、ボールサイドはリードとトレイルの2人でプレイを見ること (Ball side Two)

## センター・オフィシャル

- センターからトレイルのローテーションをする場合、リードが来たからといってオートマチックに上がるのではなく、リードがアングルを捉えたことを確認してから上がること
- 体の向きは、原則としてサイド・ラインと平行。広い視野で捉えるために、動きすぎないこと

## トレイル・オフィシャル

- ボールを渡した後、プレイヤーの背後から逆サイドに移動しない。一瞬でもストレートラインを作らない
- ドリブラーとの距離をできるだけ一定に保つ。センターとの距離についても等距離を保ち、2人で判定する



# 【閉講式】

(公財)日本バスケットボール協会 湯浅 暢宏 氏

- 研修会を受けただけでは力は向上しません。何に気が付き、どう努力しようとするかが重要です。
- ここに参加している方々は、各県の中核になる人たちです。上級の進歩なくして、各県のレフェリーの進歩はありません。上級の姿を見て、公認審判が活性化できるように心がけてください。
- バスケットボールは時間的規則が多いスポーツです。時間をいかに意識できるか。そのことで、様々なプレイヤーやベンチと戦うことができます。

北信越ブロック長 川端 孝博 氏

- 講師のお二人に大変丁寧に教えていただきました。次にステップアップすることが重要です。

富山県審判審査委員長 松倉 弘英 氏

- 今回ご指導いただいたことを、各県での指導に生かして欲しいと思います。また、日本をリードするレフェリーを目指してほしいと思います。

